

先進的あるいは特色ある教育課程	学校名等	課程
「主体的・対話的で深い学び (アクティブ・ラーニング)」	埼玉県立川口東高等学校	全日制 普通科

ア 取組状況について

① 教育課程

- ・本校は、昭和53年に創立した、各学年7クラス計21クラス規模の全日制・普通科高校である。
- ・目指す学校像を「生徒一人一人が主体的・対話的で深い学びを実感でき、全職員が地域と協働して生徒の「より良く生きる力」を育む学校」と定め、学校全体で主体的・対話的で深い学びの実践に取り組んでいる。
- ・進路多様校として、朝の10分間読書「アサヨミ」や、地域の小学校、町内会との交流事業など、生徒の主体性を引き出し、学びに向かう力を高める取組を継続しておこなっている。
- ・教育課程は、1,2年生では芸術以外は共通の科目を学んで基礎・基本の着実な修得をはかり、3年生は自らの進路希望に応じて文系、理系、総合系に分かれ、総合的な学習(探究)の時間や学年ごとの進路行事等を通じて、自己を見つめ将来の目標を具体化し、生徒一人一人の夢を実現できるよう、個に応じた丁寧な指導をおこなっている。
- ・R5年度入学生からジャパンナレッジスクールを導入し、知識活用能力の育成を図るとともに、調べ物学習、探究活動の質の向上を図っている。

② 教員の指導力向上

- ・埼玉県教育委員会は、県立高等学校を中心に平成22年度から協調学習(知識構成型ジグソー法)による継続的な授業改善を進める「県立高校学力向上基盤形成事業」(現「未来を拓く『学び』プロジェクト」)を開始した。10校26名で始まった事業であるが、年々増加し令和元年から全県立高校(139校)が研究開発校となった。本校からは10名の教員が研究開発員として授業改善に取り組んでいる。
- ・埼玉県教育委員会は、平成24年度から高等学校初任者研修に協調学習を実践的に学び「主体的・対話的で深い学び」を体得する「授業力向上研修」を実施している。今年度2名の初任者が在籍している。
- ・埼玉県教育委員会は、平成26年度から協調学習に関するマイスター(指導者の指導者)教員を育成する協調学習マイスター育成研修会を実施している。(本校からの参加者はいない。)
- ・本校では、授業改善を先導する特別チーム「未来学びチーム」を作り、ジグソー法を核としながら、ICTの活用や様々なコンテンツを活用した授業づくりの研究、共有化を図っている。また、次々と開発されている外部コンテンツの説明会や研修会の受入れを積極的に行い、活用の可能性について研究を進めている。

③ 校内組織

- ・校内においては、前述の研究開発員10名を中心とし、ICT活用をベストミックスさせた「主体的・対話的で深い学びを実現する授業」や、教科横断型の授業の研究を行う「未来学びチーム」を編成している。

④ 施設設備

- ・県費により平成30年度に全普通教室へのプロジェクタ、アクセスポイントの設置、及びタブレット端末44台と充電保管庫が整備された。令和2年度末には、全クラス同時双方向型のオンライン授業が実施できるだけの容量を持ったBYOD専用回線が敷設された。
- ・R5年度入学生から、BYADによるタブレット端末(chromebook)を保護者負担で購入し、タブレット端末1人1台環境を実現した。

⑤ 取組の成果の(都道府県)全体への普及・共有方法

- ・協調学習とICT活用の融合などの「新しい学び」を公開研究授業で実践しオンラインで配信したり、「未来を拓く『学び』プロジェクト」各教科部会で研究成果を報告したりして共有する。

イ 今後の課題

- ・知識活用能力の育成を着実にを行い、探究活動、深い学びへといかにつなげていくか。
- ・働き方改革を踏まえ、授業におけるICT活用をどのように進めていくか。
- ・保護者負担により整備されたタブレット端末1人1台環境をいかに効果的に活用していくか。